

## 「真のイノベーション実現に向けて」



経済産業省大臣官房技術総括審議官

塚本 修

人口減少化、少子高齢化の中でも力強く成長する日本経済の実現を目指し、昨年、「新経済成長戦略」が策定されました。世界のイノベーションセンターとして、アジアはもとより世界経済の牽引車としての強い日本経済の実現を目指すものです。真のイノベーション実現に向けて3つの点を強調したいと思います。

まず第1番目は、「明確な工程表の作成」です。イノベーションの実現のためには、技術のシーズと市場の双方向の好循環が必要だと言われています。経済産業省では、この好循環を導く「イノベーションスーパーハイウェイ構想」を提唱しています。高速道路は、片側通行ではなく双方向のハイスピードの通行を可能とするものです。シーズと市場の双方向の情報の通りを良くして単なる基礎研究、実用研究開発のみではなくその成果を着実に市場に繋げていく、経済成長の原動力にしていくということを狙ったものです。市場化実現のためには、様々な要素が絡んできます。例えば、数年前フィーバーとなったナノテクノロジーですが、ナノサイズ、量子効果、自己組織化というテクノロジーの本質から言うと、従来の技術体系の延長線上に無い新しい技術体系だと言われています。様々な研究開発が行われていますが、研究成果の市場化まで成功した例となるとまだ少ないように思われます。そういう中であって、(社)ニューガラスフォーラムが事務局となって進められるナノガラスプロジェクトの成果は、注目すべきものであると思います。市場ニーズと技術のシーズがうまくマッチングし、例えば、その成果の一つとして、一枚のディスクでハイビジョン映像24時間を録画可能とするナノガラス利用記録ディスクの実用化に繋がろうとしております。

技術シーズの市場化を加速するためには、技術のシーズから市場化までに横たわるハードルと言いますか、克服すべき課題を詳細に整理分析しイノベーション実現のための具体的な工程表を示すことが重要であると思います。研究開発だけにとどまらず、新しいビジ

ネスモデル，社会インフラ整備等イノベーション実現のための工程表を明示し，それを実行していく先導役を経済産業省が担いたいと思います。

2点目は、「組織間の連携強化」です。企業の研究所，大学，そして経済産業省には，NEDO，(独)産業技術総合研究所，JETRO等イノベーション実現のために大きな役割を期待される組織がたくさんあります。産業技術のイノベーションという観点からは，とりわけ異分野の技術の融合が重要であります。製品，商品は一つの技術，一つの特許のみでは成立しません。多くの技術が関与しております。新しい産業技術を開発しそれを実用化していくためには，優秀な研究者，技術者，企業経営者等多くの者が関係します。効率の良い次世代自動車用2次電池や燃料電池の開発では，電極材料，表面制御技術，電解質材料等異分野の技術が融合されて初めて飛躍的な性能が発揮できる製品が実現するものと思われます。これらの革新的な技術の基礎的研究，応用研究，実用化，商品化を一社の企業のみで達成することは大変困難であろうかと思えます。関連する組織間の連携を強化していく必要がある訳ですが，その全体のコーディネート機能が今後極めて重要になるかと思えますが，そういう意味でも，(社)ニューガラスフォーラムの高度なプロジェクトコーディネート機能に期待したいと思います。

3点目は、「人材育成の問題」です。イノベーション実現の最大の要は，人材であろうと考えます。経済産業省では我が国のみならずアジアの優秀な人材をも視野に入れた「人材（人財）育成政策」を展開しております。高い研究能力のみならず，技術の本質を見極め，経営に結びつけていくことのできる技術経営人材（MOT人材）の育成も，今後，とりわけ重要になると思えます。一つの試みとして，大学で博士号を取得したばかりの人材を(独)産業技術総合研究所と民間企業の共同研究プロジェクトに採用し，共同研究を通じ，市場化まで見通した研究，経営判断ができる人材を育成しようとするものです。実用化の段階に達したプロジェクトは，当該企業で商業化され，その博士号をもった研究者は，当該企業が採用するというものです。企業の即戦力となりやすい人材育成の一つの例ですが，今後イノベーションの実現を担う高度な人材育成に，いろいろな知恵と工夫，アイデアが出され実践されていくことを期待したいと思います。

以上，イノベーションの実現を軸に今後取り組む必要のある課題の一端を述べましたが，真のイノベーション実現の先導役として，引き続き(社)ニューガラスフォーラムの益々の活発な活動を期待したいと思います。